

海上自衛隊呉音楽隊

第52回定期演奏会 クリスマスコンサート

行進曲「K点を越えて」／高橋 伸哉

(March "Beyond the Critical Point"/TAKAHASHI, Shin'ya)

<曲目解説>

1999年の作品で、前年の1998年に開催された長野冬季五輪の日本ジャンプチーム（日の丸飛行隊）の活躍をテーマに作曲されました。もうすぐ2021年も終わりますが、今年一番のビックイベントといえば東京オリンピック2020でした。日本人選手の熱き奮闘が記憶に残る中、来年2月には冬季北京オリンピックが開幕されます。どんなドラマが繰り広げられるのか今からとっても楽しみです。

曲のタイトルにある「K点」とは、スキー・ジャンプ競技の用語で、着地における極限点を意味するものです。私たち自身も限界を超えていけるような音楽隊になりたいという気持ちもあり、オープニングとして演奏させていただきます。

グローバル・ヴァリエーションズ／ナイジェル・ヘス

(GLOBAL VARIATIONS / Nigel Hess)

<曲目解説>

ナイジェル・ヘスはイギリスを拠点に、映画音楽をはじめテレビや劇の音楽でも活躍している人気の作曲家です。この作品のテーマは「世界旅行」！世界旅行に行きたいと願う子供たちの夢を、短い時間のうちに叶えてしまおうと作曲された作品であり、ロンドンの時計台「ビッグベン」の鐘の音で列車による旅の始まりを告げ、フランス、スペイン、南アフリカ、アメリカ大陸を各国の特徴を捉えたメロディーなどにより巡り、最後にアイルランドとスコットランドを経て、再びロンドンに帰ってくる音楽の旅となっております。日本のみならず世界中が、外国に足を運びにくくなっている今、私たちと一緒に音楽で世界を旅しましょう！

ジャスパー～夢へのナビゲーター！／清水 大輔

(JASPER/Daisuke Shimizu)

<曲目解説>

作曲者の清水大輔氏は、今最も注目されている作曲家の一人で、昨年、呉音楽隊の委嘱作品も手掛けています。曲名の「ジャスパー」とは深い美しさをもつ天然石の名前で、石言葉には「勇気」や「永遠の夢」などの意味があります。今回の定期演奏会から小さなお子様もご来場いただけるということで、これからの日本の未来を担う若きお客様の、夢を後押ししたいという気持ちで、この作品をプログラムに入れました。

大人になるにつれて忘れてしまいがちな「夢」。何歳になっても、ずっとずっと「夢」は抱き続けていきたいものですね。

ニューヨークの想い／ビリー・ジョエル

(New York State of Mind/Billy Joel)

<曲目解説>

アメリカのポップシーンに欠かすことのできないビッグネーム、ビリー・ジョエル。日本でも「オネスティ (Honesty)」「素顔のままで (Just the way you are)」「ストレンジャー (Stranger)」など数多くの楽曲がヒットしました。「ニューヨークの想い (New York state of mind)」も人気の高い1曲です。もしかするとビリー・ジョエル ファンの間では「私のお気に入りの一曲」という風に、それぞれご最良にしている曲なんかがあるかもしれませんね。それくらい日本でもファンが多いアーティストといえるでしょう。

編曲は、作・編曲家でギタリストの山木幸三郎さんです。

山木さんは我が国のジャズ黎明期に活躍したビッグバンド「宮間利之とニューハード」のメンバーで、海上自衛隊音楽隊との付き合いは長く、呉音楽隊にも安芸の宮島を題材にした作品「海神様の一人夢想」がレパートリーとして残されています。

当時東京音楽隊に所属していた宮越曹長が初演した「ニューヨークの想い」を今回のコンサートでは取り上げました。

何かと慌ただしい師走のニューヨークの夜。サクセスストーリーを夢見てこの街にやって来て成功する者、夢破れる者。悲喜交々の想いをアルト・サクスが情感たっぷりに歌います。

おもちゃ箱のファンタジー／高橋 宏樹

(*Toy Box Fantasy for Wind Ensemble /Hiroki Takahashi*)

<曲目解説>

おもちゃが持ち主のいない間に、動き出すアニメや童謡は昔から沢山ありますが、このストーリーもそのうちのひとつです。夜中の12時の鐘とともに、魔法にかけられたおもちゃが動き出し自由に動きはじめます。行進をするロボットもいれば、遊んでもらえなくなって悲しみのワルツを踊るお人形さんがいたり、汽車が猛スピードで走り出すなど、様々なおもちゃの表情が多彩に描かれている1曲です。

一年の中で、子供たちが最もおもちゃを手にする日「クリスマス」を前に、「家にあるおもちゃが、もし動いていたら、、、」なんて想像してみても面白いかもしれませんね。

ウィンター・ワンダーランド／フェリックス・バーナード

(*Winter Wonderland/Felix Bernard*)

<曲目解説>

クリスマスが近づくと気持ちが高ぶるのは、街がイルミネーションやおしゃれな装飾で彩られているから、、、というのもあると思いますが、やっぱり欠かせないのはクリスマスの音楽ですよ！

呉音楽隊も、クリスマスムードを盛り上げるべく、今回の定期演奏会はクリスマスソングをプログラムにご用意しました。「すてきな雪景色」という邦題がつけられているこの曲は、雪景色の中を歩くカップルの恋模様が歌われており、曲の中で何度も「We're happy tonight Walking in a winter wonderland」(みんな今夜は幸せ 冬の銀世界を歩きながら)という歌詞が出てくる、冬のウキウキ気分を歌った1曲です！一緒にクリスマスムードをお楽しみ下さい。

ジングル・ジングル・ジングル／ジェームス・ロード・ピアポント

(Jing Jing Jing/James Lord Pierpont)

<曲目解説>

皆さんにとってお気に入りのクリスマス・キャロルはなんでしょう？

っというと、おそらく上位にランクされるのは「ジングル・ベル」でしょうか？

ところで「ジングル」ってどういう意味？と思ったので調べてみると、どうやら擬音のことらしいですね。小さい鈴が鳴る音が「♪ジングル」だそうです。さしずめ日本語だと「♪チリン」とか... ちなみにタンバリンという楽器の周りに着いている小さなシンバルのような金属も「ジングル」といいます。

確かに♪ジングルベル ジングルベル スズが〜鳴る〜っていう歌詞ですもんね。クリスマス・コンサートでは、この「ジングル・ベル」をちょっとひねって、ジャズのスタンダードナンバー「シング・シング・シング」と掛け合わせてみました。っというわけでタイトルも「ジングル・ジングル・ジングル」。この曲の編曲は、アメリカ空軍バンドのメンバーによるもので、ジャズバンド用にアレンジされていたものを呉音楽隊宮越曹長が編曲者本人の許可を得て吹奏楽用にアレンジしたものです。

「シング・シング・シング」といえばドラムセットが大活躍。そしてクラリネットのカッコいいソロ。これに「ジングル・ベル」のメロディーが！なんだかちょっと想像が出来そうでよく分からない。「百聞は一聴に如かず」。乞うご期待！